

カンボジア・ストリートチルドレン 支援プログラムの経過について（報告）

高萩ロータリークラブ
会長 大高 司郎

（担当 国際奉仕委員会）

（Ⅰ）高萩ロータリークラブの取組

高萩RCはユネスコ・カンボジアと協力して、カンボジアのNGO：SCADP（Street Children Assistance and Develop Program 代表 Ms. Yim Sokhary）を支援しています。SCADPはカンボジアのストリートチルドレンを支援する非政府ボランティア組織（NGO）です。

高萩RCは、2004~05年度から3年間SCADPに協力して、ストリートチルドレンに「古典音楽・舞踊教育プロジェクト（Art Project）」を実施してきました。

高萩RCは、チャリティコンサートの収益金、福祉施設の入所者とトウモロコシを共同栽培して販売した代金、忘年会でのチャリティオークションの収益金やニコニコBOX等により資金を確保し、さらに茨城県内の他クラブから「この指とまれ」事業により協賛金を受けて、その寄金をSCADPに寄託して、ストリートチルドレンに自立の意思と手段を身につけさせようとするプロジェクトでした。

2007~2008年度からは、ストリートチルドレンの「初等教育就学プログラム」に着手し、2012~2013年度までの6年間続けました。年間US\$25で一人の子供を一年間学校に送ることができるプログラムです。

教育こそが、貧困や伝染病から脱して平穏な社会を作る基礎になると信じ支援してきました。

（Ⅱ）第2820地区国際奉仕WCSプログラム「この指とまれ」の協賛金支援とSCADPへの支援金について

2004~2005年度に始まった第2820地区が提唱するこのプログラムと高萩RCのストリートチルドレン支援プログラムは同じ年度にスタートしたことから、高萩RCは第1回「この指とまれ」からプロジェクト提唱をしてきました。

2012~2013年度まで9年間に亘り参加し、お陰様で高萩RCのストリートチルドレン支援プログラムは多くの地区内ロータリークラブに広く知られるようになり、これまでにガバナーはじめ多くのクラブからご賛同していただき、多額の寄金を提供していただきました。

（9年間のSCADPへの支援実績）

2004~05年度 7クラブから協賛金 250千円（高萩RC 300千円）

計 550千円支援

2005~06年度 萩原PGと5クラブから 160千円（高萩RC 100千円）

計 260千円支援

2006~07年度	佐藤 PG と 5 クラブ及び地区補助金で 254 千円（高萩 R C 316 千円）	計 570 千円支援
2007~08年度	井上 PG と 6 クラブから 180 千円（高萩 R C 150 千円）	計 330 千円支援
2008~09年度	広瀬 PG と 8 クラブから 150 千円と 高萩里山文化ネットワークから 10 千円（高萩 R C 140 千円）	計 300 千円支援
2009~10年度	7 クラブから 140 千円（高萩 R C 160 千円）	計 300 千円支援
2010~11年度	13 クラブから 280 千円（高萩 R C 120 千円）	計 400 千円支援
2011~12年度	大木 PG と 17 クラブから 330 千円（高萩 R C 70 千円）	計 400 千円支援
2012~13年度	18 クラブから 312 千円（高萩 R C 88 千円）	計 400 千円支援

9 年間で SCADP に計 3,510 千円支援

（内、「この指とまれの協賛金」1,942 千円と地区の補助金 114 千円）

第 2820 地区のバスター、バスター事務所並びに各ロータリークラブの ご協力に対し、心からお礼を申し上げます。

(Ⅲ) 2013~2014 年度「この指とまれ」にプロジェクト提唱しなかった事情

高萩 R C のカンボジア・ストリートチルドレン支援プログラムは、2004~2005 年度にはじまり、当初 3 年間は「古典音楽・舞踊教育プロジェクト」、続いて 2007~2008 年度から現地の SCADP の要請を受け 3 年間の計画で「初等教育就学プログラム」に取り組んできた。その後もこのプログラムに対する要請があり、2010~2011 年度から引き続き 3 年間の計画で「初等教育就学プログラム」を続けてきた。

高萩 R C としては、当初から 3 年ごとにプログラム内容を見直し、SCADP と協議しながら支援する方針で取り組んできた。

昨年は、延長した 3 年の計画の期限（2013 年 6 月）が来る前に、成果を確認するためにカンボジア視察を検討し、日程等を SCADP と打ち合わせてきた。連絡がスムーズにいかず視察が延び延びになってしまい、今後の支援計画を決める時期が迫ったので、2013 年 6 月に作山会員を急遽現地に派遣し、SCADP の活動状況等を調査した。

作山会員の調査によると、ストリートチルドレン支援について、SCADP の要望は「初等教育就学プログラム」とは別な方向にあることが分かり、高萩 R C 内で協議した結果、現地ニーズを十分に把握し、検討することが必要との結論に達した。

高萩 R C としては、2013~2014 年度は支援内容を検討する時期とし、第 2820 地区の「この指とまれ」にはプロジェクト提唱しないことにした。

内容等が固まり、カンボジア・ストリートチルドレン支援を続けることになれば、次年度以降「この指とまれ」に提唱し、各クラブにご協力をお願いする意向であります。

(IV) 現地訪問について

当初、寄金を寄託するに当たっては、直接手渡すことを原則とし、併せて、現地の様子を確認することが重要と考えた。

- ① 2005.2 沼田会員、作山会員が現地訪問し第一回の支援金贈呈
目的 SCADP の活動状況視察、ストリートチルドレンの現状把握と支援金贈呈
- ② 2006.2 作山会員が現地訪問し第二回の支援金贈呈
目的 音楽プロジェクトの進捗状況確認と支援金贈呈
- ③ 2007.2 高萩 R C 10 名、北茨城 R C 7 名計 17 名が現地訪問し、SCADP と共同事業覚書締結し第三回の支援金贈呈
目的 ノンフォーマル・スクールの現状視察、SCADP の活動状況視察および音楽プロジェクト共同事業覚書締結と支援金贈呈



(共同事業覚書調印)



(Art Project の楽器)

なお、2006~2007 年度から 2012~2013 年度の 6 年間は SCADP 宛送金により「初等教育就学プログラム」支援資金贈呈

- ④ 2013.6 作山会員が現地視察
目的 * 現地 NGO 「SCADP」の活動状況の把握
* 当クラブ寄金（この指とまれの協賛金も含めて）の使用状況の把握
* 継続的支援の必要性の有無

<結果> * SCADP は極めて正常に活動している
* 現地を見、報告書を検討した結果、寄金は正常に運用されている
* SCADP のこの事業は、今後 10~20 年に及ぶであろう。
ストリートチルドレン支援内容については随時検討しながら、支援を継続する意義はあると考える。



(ノンフォーマルスクール)



(ゴールドメダルと感謝状授与)

(V) このプログラムの評価について

① 2006~2007年度 RI「協同プロジェクト最高賞」受賞

「カンボジア古典音楽・舞踊教育プロジェクト」は、高萩RCが他の団体——現地NGO「SCADP」とユネスコ・カンボジア——との三者協同の人道奉仕活動として顕著な業績を挙げたことから、RIから表彰された。



② 2011~2012年度 カンボジア政府から「ゴールドメダル」授与

「初等教育就学プログラム」資金支援に対して、SCADPからカンボジア政府に強い働きかけがなされ、第2820地区を代表して高萩RCにカンボジア政府から「ゴールドメダル」と併せて感謝状が授与された。

この受賞は、第2820地区の「ストリートチルドレン支援活動」について、カンボジアから大きな期待が寄せられていることを表している。



(ゴールドメダル)



(フンセン首相のサイン入りの感謝状)

③ 高萩RC内での評価

(a) 会員の国際奉仕についての意識の向上

クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕や青少年奉仕に比べ、国際奉仕はロータリー財団や米山記念奨学会に対する寄付活動として参加してきたが、2004~2005年度からこのプログラムに取り組み、現地の施設訪問や覚書締結式等を経験したことにより、実践をとおして会員の国際奉仕の意識が向上した。

(b) バランスにとれた五大奉仕活動の確立

カンボジア・ストリートチルドレン支援の資金は、チャリティコンサート、トウモロコシの販売代金、忘年会のオークションやニコニコBOX等から賄い、クラブの奉仕活動の機会に市民や関係者へカンボジア・ストリートチルドレン支援の実情を報告している。

高萩RCとしては、その他の奉仕活動と協調して活動し、この人道奉仕活動により実践面から五大奉仕プログラムが確立した。

(c)国際理解の推進

ユネスコ・カンボジアと高萩RCの協同による手作りのプロジェクトとして始まり、国際理解を肌で感じ、意識の向上につながっている。さらに、ロータリーの国際奉仕の実践を通して、ささやかながら国際平和に寄与している達成感を味わっている。

④ 第 2820 地区内での評価

ほとんど知られていなかったストリートチルドレンの存在と実態を、地区内のロータリークラブの共通認識としたのはこのプログラムであり、当地区のロータリアンがこの分野に目を開き、理解して協賛したことの意義は大きい。

第 2820 地区の国際奉仕活動「この指とまれ」のスタート年度と高萩RCのこのプログラムの開始が一致したことにより、9年間「この指とまれ」に提唱し、地区の国際奉仕事業の中核であるWCS「この指とまれ」の代表的事業になった。

9年間で、ガバナー、地区内 30 クラブ（延 85 クラブ）からの協賛金や地区の補助金を計 2,056 千円賛助していただき、高萩RCと合計で 3,510 千円をカンボジア・ストリートチルドレン支援として SCADP へ寄託した。

(VI) SCADP の現在の活動状況

① ハウジング・プログラム

家のない子を一時的に住ませるプログラム。

放っておけばギャングや売春婦になってしまうことの多いストリートチルドレンを、とにかく路上環境から救い上げるため寝る場所を提供することが SCADP の活動の第一歩目である。

② ノンフォーマル・スクールの運営

路上の子はもちろん、仮に家があり親がいたとしても、貧しくて学校に行かせてもらえない子は多い。そのような子は、大きくなっても職を得ることができない。それが大きな社会問題になることは明らかである。

ノンフォーマル・スクールで、読み書き、計算を教え、やがて手に職を持たせて、社会人として生きていけるようにさせてやるのが、SCADP の重要な活動目的の一つである。

③ レッツサポート・チルドレンプログラム

就学支援プログラムである。年間 US\$25 で子供を一年間学校に入れることができる。ノンフォーマルで学び、力の付いた子は正規の学校に入れる。そのことによって、通常社会の中で生きていく知識と力を与えることができる。

2013~14 年度まで、高萩RCと第 2820 地区「この指とまれ」で行ってきた支援活動は、このプログラムである。

第 2820 地区と高萩RCの長年にわたる支援事業が高く評価され、カンボジア政府から「ゴールドメダル」が授与された。

(補足)

SCADP 代表 Ms.Yim Sokhary は、カンボジア国内外の 50 の民間団体で構成する NGO CRC (NGO 子どもの権利委員会) の議長の要職に在り、カンボジアの子ども支援の第一人者として、政府からも大きな期待を寄せられている。

(VII) 今後のカンボジア・ストリートチルドレン支援について

これまで6年間に亘る第2820地区の「この指とまれ」と高萩RCで行ってきた「レッツサポート・チルドレン・プログラム（初等教育就学プログラム）」によって、約250人の子供が3年間学校に行くことができた。

このプログラムは、路上から救い上げたチルドレンを、次の段階に上げようと計画したSCADPの要請に応じたものである。

現在でもSCADPの活動の中心が路上の子供たちを救い上げる事業であり、学校に行かせる前に、如何に路上から救い上げるかということがカンボジアでは切実な問題なのである。

これまで首都プノンペンでの活動が主であったが、SCADPの実績が注目され、カンボジア全土から活動要請を受けるようになった。

9年前にはプノンペン近辺で4つのスクールを運営していたSCADPだが、現在は全国で（特に紛争地帯であるタイとの国境付近を中心に）33のノンフォーマル・スクールを運営している。スタッフの数は9年前とさして変わっていないから、極めて忙しい。

今回の視察で、SCADPの執行部と会談した中で出てきた要望は、ハウジング・プログラム（一時的に居場所を提供する）と、ノンフォーマル・スクール（非公式学校/寺子屋のようなもの）への支援である。

ハウジング・プログラムは家や親の無い子どもたちを直接救いとる最も切実なプログラムである。彼らを住まわせる場所を確保し、ノンフォーマル・スクールに入れさせることである。

一方、ノンフォーマル・スクールは、家や親があっても貧しくて学校に通わせてもらえない子どもたちも対象となる。多くは、町や村の体をなしていないコミュニティと呼ばれる集落において行われている。

現地のSCADPのニーズが「ハウジング」や「ノンフォーマル・スクール」への支援要請であれば、私たちの支援内容もそれに焦点を当てるのは自然の流れであろう。

どのような形で支援するのが良いか、まだまだ内容を詰めなければならないが、現地のニーズを把握して、今後の支援方向を検討していくこととする。